

Chapter 2

クラフツマンシップ Craftsmanship

ウェグナーが活動した 1930 年代から 1990 年代は、美術史家のグレゴール・パウルソンが提唱した家具デザインにおいて「日用品もより美しく」という理念を実現するべく、近代デザインの家具が大衆化・定着した時代だった。大量生産を前提とし、手に取りやすい価格帯を目指しながらも美しいデザインを追求する一。この相反するかに見える条件を乗り越える一つの解としてウェグナーが見出したのが「クラフツマンシップ」であった。

本章では今日多くのウェグナーの椅子を手掛ける PP モブラー社とカール・ハンセン&サン社の製造プロセスを取り上げながら彼の作品が擁する「クラフツマンシップ」とは何かを読み解く。

ウェグナーは自ら図面を起こし、1/5 サイズのスケールモデルを製作したが、更なる製造プロセスでは職人と対話することを怠らなかった。彼らとのコミュニケーションを通して協働する各メーカーの得意分野を把握しながらデザインを提供し、時に技術開発にも携わった。その姿勢からはリデザインというアプローチに基づき合理的で洗練されたデザインを追求する一方で、人々のニーズを汲み、機械加工も厭わない現実主義的な顔ものぞかせる。